

2011年(平成23年)11月8日(火曜日)

案内標識の設置完了

関係者出席して記念式

増毛 山道

【増毛】増毛山道(別称、岩尾)案内標識完成記念式が、五日午前十時から岩尾側の山道入口で行われ、神事、案内標識の設置で作業の完了を祝った。

案内標識は、円形の赤いプラスチック製で直径二十五センチ、厚さ三センチ。別対側から入る場合は「I」、岩尾側は「B」の記号の下に1から100までの数字が刻まれている。標識の設置は、利用者が迷

わなないように目印にするのが目的。十月から留萌振興局、NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)の協働事業として、復元した十六キロ区間で行われてきた。どちら側から入っても位置や入口からの距離が分かるように百六十メートル間隔で上り下りにそれぞれ設置。記念式には、留萌振興局、岩尾側の入口を示す「B・1」の標識を設置する留萌振興局の竹谷局長



増毛山道の会をはじめ岩尾自治会の西野憲一会長や同自治

会会員で増毛山道研究家の佐野三郎さん(九三)ら二十二人が出席。神事に続いて、留萌振興局の竹谷千里局長が岩尾側の入口を示す「B・1」の標識を道沿いの木に打ち付けた。さらに西野会長が出口を示す「I・100」の標識を入口から八十メートル離れた所に打ち付け、設置作業を完了した。

竹谷局長は「今後、地域の資源、増毛町の財産として、どのような活用方法があるかを皆さんと一緒に考えたい」とあいさつ。西野会長は「昭和三十七年三月に、岩尾に住む女子中学生三人が増毛高校を受験するため、この生活道路を利用した。これを最後に誰も利用しなくなったが、この道は住民にとって価値のある道路」と述べ、復元に感謝した。

案内標識が設置された区間は一般開放されておらず、今後の開放も未定。留萌振興局では、二十四年度も同区間を利用して検討会やツアーを継続し、アンケート調査などで活用方法に関する意見を聞き、今後の方向性を見いだす。

(木村繁)